

【A年】

聖霊降臨後第十六主日

特定十九

神よ、あなたに寄らなければわたしたちはみ心にかなうことができません。どうか何事をするにも、聖霊によってわたしたちの心を治め、導いてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」

会衆は着席する。

聖書

朗読者 「聖書はシラ書第二七章三〇節から」

30 憤りと怒り、これはひどく忌まわしい。

罪人にはこの両方が付きまとう。

1 復讐する者は、主から復讐を受ける。

- 主はその罪を決して忘れることはない。
- 隣人から受けた不正を赦せ。そうすれば、願う求めるとき、お前の罪は赦される。
- 3 人が互いに怒りを抱き合っていないながら、どうして主からいやしを期待できようか。
- 4 自分と同じ人間に憐れみをかけずにいて、どうして自分の罪の赦しを願えようか。
- 5 弱い人間にすぎない者が、憤りを抱き続けるならば、いったいだれが彼の罪を赦すことができようか。
- 6 自分の最期に心を致し、敵意を捨てよ。滅びゆく定めと死を思い、掟を守れ。
- 7 掟を忘れず、隣人に対して怒りを抱くな。いと高き方の契約を忘れず、他人のおちどには寛容であれ。

朗読者 「聖書を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第一〇三編 八節〜十三節

- 8 主は恵み豊かに、憐れみ深く＝ 怒るに遅く、慈しみは深い
- 9 常に憤る心を鎮め＝ いつまでも怒りを続けられない
- 10 罪に従ってわたしたちをあしらわず＝ とがに従って罰を下すことはない
- 11 天が地より高いように＝ 神を畏れる人への慈しみは大
- 12 東と西が果てしなく遠いように＝ 神はわたしたちを罪から引き離される
- 13 父が子供を憐れむように＝ 主の憐れみは、神を畏れる人の上にある

使徒書

朗読者 「使徒書はローマの信徒への手紙第十四章五節から」

5 ある日を他の日よりも尊ぶ人もいれば、すべての日を同じように考える人もいます。それは、各自が自分の心の確信に基づいて決めるべきことです。6 特定の日に重んじる人は主のために重んじる。食べる人は主のために食べる。神に感謝しているからです。また、食べない人も、主のために食べない。そして、神に感謝しているのです。7 わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。8 わたしたちは、生きるとすれば主

のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。9 キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。10 それなのに、なぜあなたは、自分の兄弟を裁くのですか。また、なぜ兄弟を侮るのですか。わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つので

11 こう書いてあります。

「主は言われる。

『わたしは生きている。

すべてのひざはわたしの前にかがみ、

すべての舌が神をほめたたえる』と。」

12 それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖マタイによる福音書第十八章二一節以下に記された主イエス・キリストの福音。 主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

21そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」22イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七十倍までも赦しなさい。23そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。24決済し始めたところ、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。25しかし、返済できなかつたので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。26家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きつと全部お返しします』としきりに願った。27その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。28ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの借金をしている仲間に出会うと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。29仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。30しかし、承知せず、その仲間を引っぱって行き、借金を返すまでと牢に入れた。31仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。32そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金

を全部帳消しにしてやったのだ。33わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかつたか。』34そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。35あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」